



年度末夜間例会次第



例会の部

- ・ 開会・点鐘
- ・ ロータリーソング
- ・ 会長挨拶
- ・ 幹事報告
- ・ 閉会・点鐘



懇親会の部

- ・ 親睦活動委員長挨拶
- ・ ゲスト紹介
- ・ 一中節ご披露 東京西ロータリークラブ一中節同好会様
- ・ 乾杯

食事・歓談



新旧交代式

- ・ 会長挨拶 / 幹事挨拶
- ・ 花束贈呈
- ・ 次年度会長挨拶 / 次年度幹事挨拶
- ・ 懇親会終了
- ・ 閉会



- ・ 手に手つないで
- ・ 集合写真

東京六本木ロータリークラブ
2024—2025年度
年度末夜間例会

2025年6月30日（月）

18：15 開宴

グランドハイアット東京

2F コリアンダー



東京西ロータリークラブ 一中節同好会

我がクラブに、重要無形文化財に指定されている一中節の宗家都一中さんが会員として在籍なさっているご縁で、2009年に私的な同好会がスタートしました。

その後2011～12年度に正式な同好会としてクラブ理事会で承認されました。
一中節は浄土真宗の僧侶であった初世都一中師により**元禄時代に京都で始まった浄瑠璃の一つ**です。基本は三味線を伴奏楽器として物語を歌う(語る)古典音楽として継承され、18世紀には江戸へ進出して大流行となりました。
その後、常磐津や清元等が派生しましたが、一中節は**日本の古典音楽の源流**といわれています。19世紀になると、その芸術性と知性的な特徴により、**大店の旦那衆が楽しむ秘められた音楽**となりました。近年には**出光佐三、大倉喜八郎等の財界人夏目漱石、芥川龍之介等の文化人にも好まれ**、彼らの文章の中には一中節という言葉が度々出てきます。また谷崎潤一郎は小説「細雪」を題材に「花の段」という一中節の名曲を作詞しています。

当クラブ会員の都一中さんは、平成3年に人間国宝十一世都一中師没後、**十二世都一中を襲名なさり、日本芸術院賞を受賞なさっています。**
有り難いことに我々は、ご多忙な**都一中さんから直に指導していただく幸運に恵まれています。**
お稽古は例会の前に、オークラの神前結婚式場で行っています。浄瑠璃はふつう単独で語りますが、一中さんのご創意で、男性合唱団として指導して頂いています。**これは本邦初の試みで、邦楽の中でも話題になっているそうです。**尤も我々は一人で語るより、皆で語れば怖くないというのが本音です。
同好会が発足して16年、現在同好会員は29名ですが、**数人の名取を輩出しています。**お陰様でクラブの周年や夜間例会、また地区大会やロータリー研究会でも語らせて頂き、先日開催の東京西ロータリークラブ70周年前夜祭でも多くの皆様の前で披露することができました。今後もロータリークラブにおいて特色ある同好会として、**日本文化保持の一助となるよう、会員一同精進してまいります。**

東京西ロータリークラブ一中節同好会：代表世話人 小島 篤

東京西RC一中節同好会 本日の曲目

「現代の都」

現代の都に集いて和して より良き奉仕を追い求め
あまねく人の幸せ目指す 君と我との西ロータリー

人の想いは様々なれど 出会いの絆を大切に
三千世界の平和を願う 君と我との西ロータリー



「石橋」

されば文殊の浄土には 常に聞こゆる音楽に 花降りかかり
獅子王の いさみなしてぞ舞ひ遊ぶ
神仏加護の人ならば 獅子の舞楽も穏やかに かならず迎へ
申すべし 暫く待たせ候へや
影向の時今幾程に よも過ぎじ
獅子團乱旋の舞楽のみきん 獅子團乱旋の舞楽のみきん 牡丹
の英にほい満ち満ち 体金離金の獅子頭
うてやはやせや牡丹芳 黄金の薬頭はれ 花にたはふれ枝に
臥し 実にも上なき獅子王の
勢ひなびかぬ草木もなき 時なれや
萬歳千秋と舞ひ納め 萬歳千秋と舞ひ納めて
獅子の座にこそ直りけれ